

Yokohama

1857

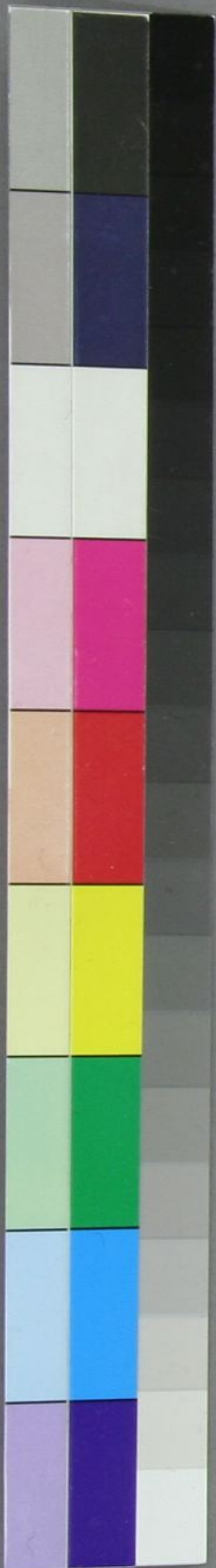
当春海軍中尉が於て甲鐵船に入申、此處に於て函及紙符
 右に雛形ヲ取置、右の細書ヲ同者法掛、此等上列の
 物共其後何に比、其の當之、然し其の貴者於て甲鐵船
 の買入並に其の函及紙符、古十時より午時迄二回社にて
 系上者並に細書の係中上者様、此處に
 蒸氣船「イム」の号、近き安元江、到着仕、此處に
 此船ハ到り、此後此の據造、十日以、石炭之消費、此等
 少許ニシテ甚速駛之船、此處に於て日本政府之
 此用、此の案、絶妙之船と存、右の細書、此の通、此の
 射力、此の余、此の素、十日、右の船、此の出、此の細、此の
 中上者也

八月八日

ハトスニ
マルカム 社中

大隈重信閣下

Yokohama



蒸氣船「ライムーン」號

右ハ千八百五十九年「アラバ」キウオール(地名)ノ「チーム」ス製鐵及ビ造船會社ニ於テ新ニ製造シタル鐵張外車蒸氣船ニシテ其製造ノ主意タル「アラバ」支那通商ノ用ニ供シ以テ鴉片ノ運輸殊ニ郵便ノ遞送ヲ便ニセンガ爲メ更ニ其費用ヲ厭ハズ偏ニ速馳ヲ旨トシ最モ名工良材ヲ選デ製造セシメタルガ故ニ其構造ノ美ナル固ヨリ論ヲ俟タズ加フルニ堅牢至厚且ツ水脚ノ淺キ更ニ他船ノ比ニアラズ是レ此船ノ支那近岸ノ航海ニ適合セル所以ニシテ其速力ヲ試ルニ一時間能ク英國二十里以上ヲ航海ス此船始メ四ヶ年間支那ノ海岸ノミテ航海ナシタリシガ毎ニ其航海ヲ誤ルコトナキヲ以テ大ニ稱用セラレシコトハ普ク衆人ノ知ル所ニシテ其後日本政府於テ之ヲ買入凡ニ二ヶ年間僅ニ使用セラレシガ後暫ク之ヲ横須賀ノ海上ニ差置レ千八百七拾二年ニ至テ四本橋航前船ノ裝飾ノ儘復ビ之ヲ賣却セラレタリ因テ「アラバ」之ヲ英國ニ歸帆セシメ今般倫頓(「ヘンチョル」街及ビ「ライムハウス」ブリタニア)及ビ「デブ」フォルドグリー「ドック」ヤルツノ「ダブリウ」ウオール社中於テ更ニ修復改製シ「ニウカスツル」(地名)ノ「チウセ」ボルトン機關會社ニ命ジテ新ニ機關及ビ螺旋ヲ裝置セシメタリ

此船ヲ構造スルニ更ニ其費用ニ拘泥セズ百方善美ヲ盡セルコトヲ證センガ爲メ左ニ其明細書ヲ掲ケ以テ之ヲ有志ノ諸君ニ示ス

蒸氣船「ライムーン」號明細書

一 大サ 鉛直線ヨリ鉛直線迄ノ長サ 二十七丈二尺 ○龍骨ノ長サ 二十五丈五尺六寸

○幅 二丈七尺六寸 ○龍骨ノ頂ヨリ船ノ中央迄ノ深サ 一丈八尺 ○艙ノ深サ 一丈

一 積高 荷物輕重平均千二百五十噸 一 石炭貯場ノ量 凡百六十噸則十五日分ノ焚キ量

一 水脚 荷積一丈三尺六寸 積荷ナシ九尺 一 等級(「リバアウル」第二十等(「ロイツ」第九十等

一 速力 英吉利石炭九噸ニテ 一時間十里 一 英吉利石炭 十六噸半ニテ 一時間十五里

一 種類 三本橋(「スクー」チル)形 一 乗客ノ準備 上等三十六人 中等十二人 下等 四十人

但シ内甲板ノ高サ七尺六寸長サ二十丈ニシテ下等ノ客間ニ至ル迄空氣ノ流通頗宜シ

一 荷物ヲ揚ケ卸ス器械 蒸氣仕掛萬力貳箇及ビ車地一個

一 器械 名目百六十馬力其實八百馬力ノ圓筒ヲ倒置セル上下運轉(「コンバウ」ンド「ソルフェ」ース「コン」デンシン「グ」エンシン)

○圓筒ノ直徑三尺二寸及ヒ六尺二寸 (「ストローク」) 三十六寸 (「クワンク」シャフト) 一尺

(「ブレード」)四枚附内車螺旋 但掛替附

○唧筒ノ棒 直徑五寸五分 ○水ヲ操込ム(「ポンプ」)二箇 ○塗ヲ操出ス(「ポンプ」)二箇

○大機關エ水ヲ繰込ム用ナル小機關

一 釜 圓筒形ノ二管ヨリ成リ其力ヲ能ク機關ニ適當セルカ故自在ニ之ヲ運轉セシムルヲ得ヘシ但シ壓力ハ方一寸ニ付七十(「バンド」)水ヲ以テ試ルハ方一寸ニ付百四十(「バンド」)

釜ノ直徑 一丈二尺三寸

熱ヲ受ル全面ノ廣サ 三千二百尺

尙委細ノ事ヲ知ラントナラバ速ニ下名エ光臨シ給ンコトヲ希フ

船主代理

横濱七十三番

ハドスン社中

マルカム

横濱 ハロビン マルカム社中ヨリ来状

東京大蔵省

大隈重信閣下

His Excellency

Osama Higginbotham

Osaka

Tokio



